

めだか談義

メダカ発世の中つれづれの記 2019・10・5

前回の「都市化」の話の続きです。解剖学者で大の昆虫好きの養老孟司さんがこんなことを書いています。「都市化というのは、まわりを高い壁で囲った人工的な空間を作って、その中に合理主義に徹した社会システムを創り出すやり方だ。その囲いの中からは、自然はとことん追放される。土をアスファルトで覆って動物や虫たちを住まいから追い出してしまふ。で、その人工的な空間のなかで、人間はエネルギーを湯水のように使って様々な人工物を大量に生産し、大量に消費する日々を送っていく。その中で自然物と言え人間ぐらいなのだが、洋服を着たり、靴を履いたりして、自然物であることを隠そうとしている。」象徴的な、少し乱暴なもの言いですが、核心をついた表現ですね。誰かさんに聞かせたい。その養老さんが、人間の勝手な都合で命を落とした虫たちの供養にと、鎌倉建長寺の境内に「虫塚」を数年前に造りました。設計を隈研吾（新国立競技場の設計者）に依頼して、ゾウムシやクワガタ、カブトムシの大きな石の彫刻とステンレスの大きな虫かごモチーフのオブジェが、屋外アートにもなっていてなかなかの人気だそうです。小田原市もこんな素敵な発想でメダカの供養に予算をかけてくれないかなあ、荻窪の「めだかの学校」の施設はあまりに寂しい。もっと工夫がないと訪れる人も少ないまま。観光客でさえ、来てガッカリではないのかなあ。それにしても、建長寺、人間の供養だけでなく、太っ腹。

「都市化」の話は、東京にならえと全国に広がったわけですが、これに敢然と決別宣告を出したのが、徳島県です。あの、阿波踊りの徳島です。県のPR動画を見てください。

「徳島県のPR動画」検索でYouTube映像を見ることができます。タイトルは、「VS 東京」。映像の素晴らしさもさることながら、高らかに、東京を追いかけない、と宣言した度胸に感動を覚えました。郷土の宝物を大切に、郷土で生きていく。田舎だからこそアイデンティティを大事にしようと堂々の主張。過疎だからインターネットの通信速度も速いよ、とちゃっかり企業誘致もしていますが、徳島の態度が変われば、東京も変わる、東京が変われば、日本も変わる、とまあ大変な意気込みです。「VS 東京」の動画と並んで徳島県移住PR映像「東京のこどもと徳島のこども」もとても興味深いです。こちらもぜひ。いま、当会が環境保護課とともに進めている協働事業のタイトルは「メダカで気づく（築く）小田原の豊かな暮らしデザイン」というものですが、森里川海という自然の総構に守られた地で、その環境を守り、土とともに生活を営むたくさんの人々を紹介していこうという狙いですが、この徳島の試みはとても参考にもなり、励みにもなります。ここに登場している徳島の子どもたちの表情、発言こそ、都市化を促進し、景気拡大だけを目標としている大人たちに見せ、聞かせたいと強く思います。先ごろの鬼柳での「メダカ救出作戦」に参加した赤松さんのお子さん（5歳）はこう言ったそうです。「なんで、大人が勝手に決めてしまうの？」子どもの声は聞いたのか、生き物の声は聞いたのか、という質問と同じですね。5歳と言われているチコちゃんから「ボーと生きてんじゃねーよ」と叱られた気分にもなります。ちゃんと答えてあげられない私たちも情けないですね。

今回は最後に、その「メダカ救出作戦」で救われた生き物の数が内水面試験場から報告されましたのでそれを。横幅1m足らずの水路がなんと豊かな生態系かと改めて知らされました。ミナミメダカ 481、オイカワ 874、タモロコ 539、ドジョウ類 1066、カマツカ 8、コイ 6、ギンブナ 1、サワガニ 135、モズクガニ 3、アメリカザリガニ 2442、カワリヌマエビ属 869、ツチガエル 7、マルタニシ 11、カワニナ類 1665、ヒメモノアラガイ 1、タイワンシジミ 405、コオイムシ類 4、ヒメガムシ 4、セマルガムシ 1、ケラ 2、シマイシビル 3

「なんで大人が勝手に決めてしまうの？」